

4月29日に帰宅して水はけの良い黒土等を入れた小型の水槽に幼虫を放すと、翌30日には土中に潜っていた。3日に一度くらいの割合で水分を補給し、室内で保管した。

容器はほとんど毎日観察していたが(5月14日～16日を除く)、5月17日に羽化脱出した成虫を確認した。2～3日早く地表に出ていた可能性もあるが、幼虫の採集から羽化脱出までの過程は2016年のタイワンアトボシアオゴミムシとほとんど同じである。

成虫の生態に関しては、松本(2000)に詳しいので簡単な観察にとどめ、生息場所を模したような飼育環境づくりはしなかった。成虫はきわめて活発に土壌面を歩行し、土の隙間に潜る行動をとる。餌としてはヒラタアブ成虫、キンバエ成虫、鱗翅目幼虫を弱らせた状態で与えた(図2, 3)。いずれも外皮を残さず食べてしまうことが多かった。一方、乾燥イトミミズ、乾燥アカムシは摂食した様子がなかった。

また松本(2000)によれば、アワフキムシ幼虫を好んで捕食するとのことであったので5月30日にスイカズラで採集した幼虫で試したところ、2日間で3頭を捕食した。6月1日には腹部が膨張していたが翌2日朝には元に戻っていた。

なお、松本(2000)により本種の生息環境で確認されて図示された幼虫は、まさしく本種の幼虫であった。

末文ながら、文献を紹介していただくとともに貴重なご意見を賜った森正人氏、森田誠司氏、情報をいただいた長瀬正義氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 笠原須磨生, 1980. ススキの歩行虫二種. 甲虫ニュース, (52): 6.
 笠原須磨生, 1984. いわゆる“チュウジョウアオゴミムシ”について. 甲虫ニュース, (65): 5-7.
 黒沢良彦, 1975. チュウジョウアオゴミムシの習性. 甲虫ニュース, (29, 30): 7.
 松本慶一, 2000. ススキ属植物の葉鞘間に見られるオサムシ科甲虫4種の生活史に関する研究. 東京都高尾自然科学博物館研究報告, (19): 1-33.
 須田 亨, 2016. タイワンアトボシアオゴミムシ幼虫の採集記録と生態等について. さやばねニューシリーズ, (23): 33.

(須田 亨 372-0006 伊勢崎市太田町 770-4)

【短報】北海道上ノ国町でルイスホソカタムシを採集

ルイスホソカタムシ *Gempylodes ornamentalis* は体長が幅の8.5倍もありホソカタムシ科の中では細長の特異な体型で、キクイムシ類の坑道に潜り込み、それらを捕食すると言われている(青木, 2012)。本種の記録は今まで福島県が北限となっていたが(青木, 2013)、筆者は北海道で本種を採集したのでここに報告する。

1ex.(図1), 上ノ国町膳棚, 19. VII. 2017, 筆者採集・保管。

道路工事現場の広葉樹を伐採した材積みにて、ブナ材の小口に止まっている本種を採集した。

報告にあたり、採集に同行し、採集の機会を作っていただいた小松利民氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 青木淳一, 2012. 日本産ホソカタムシ類図説. 40 pp., 昆虫文献六本脚, 東京.
 青木淳一, 2013. ホソカタムシの誘惑 [第2版] 日本産ホソカタムシ全種の図説. 107 pp., 東海大学出版会, 奏野.

(名越和夫 042-0932 函館市湯川町3丁目13-18 ロジェ湯川II・506)



図1. 北海道産ルイスホソカタムシ。